

# IGARSS2011 参加報告

D1 橋本 秀太郎

2011年7月24日から29日にかけて開催された2011 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium (IGARSS 2011)に出席し、研究発表を行いました。IGARSSはIEEE GRSSが年1度開催する国際会議で、数千人の世界中のリモートセンシング分野の研究者が一堂に会する大規模なイベントです。今回参加したIGARSS 2011のもともとの開催場所は日本の仙台市でしたが、東日本大震災による影響からカナダのバンクーバーへと変更となっていました。IGARSS 2011の発表申し込み件数は2222件で、アクセプトされた発表は1495件、そのうち口頭発表が835件、ポスター発表が660件でした。

今回、私は“A framework of ontology-based knowledge information processing for change detection in remote sensing data”という題目で発表を申し込みました。この発表は、衛星画像の自動判読を実現する方法として、オントロジーベースの知識情報処理を取り入れることを提案するという内容でした。査読の結果、“Classification and Change Detection”という口頭セッションでの発表で無事にアクセプトされました。開催地変更の影響もあって今回は初めて先生も同伴しない単独参加でしたが、3度目の国際会議だったこと、発表準備を十分行っていたこともあり、不安になることはありませんでした。しかし、発表を行う会場が数百人は入りそうなホールだったことにはさすがに驚いてしまいました(写真1)。発表時にはその7~8割の席が埋まっていたこともあり、緊張しましたが、発表後の質問にも答えることができ、無事に発表を終えることができました。



写真1：口頭発表を行ったホール

また、今回の会議参加を通じて同年代の学生や大学等の研究者と交流することができました。お互いの研



写真2：バンクーバーの街並み

究紹介や分野の現状・将来展望についての意見交換を行うことができ、貴重な経験でした。ただ、せっかくの国際会議なのに日本人だけで固まってしまっている事が多かったのは反省点です。他の研究者の講演を聴講していて、私の研究と似た趣旨の発表を行っている教授の方がいたのですが、自分の拙い英語で話しかけて良いのか悩み、結局アプローチできなかった事は悔やまれる出来事でした。海外の研究者とも不自由なく議論できるような英語力と自信を身につけることが課題だと改めて感じました。

バンクーバーは真夏でも最高気温が20度前半ととても過ごしやすく、綺麗な街並みの都市でした(写真2)。またサマータイムを導入しており、夜の21時頃でも明るく、屋外で長く活動することができます。ですので、その日の興味がある研究発表を聴講後、レンタサイクルを借りて市内観光ができました。観光や食事を通して開催地の文化に触れる事ができるのも国際会議参加の醍醐味のひとつです。スタンレーパークという都市部に隣接した大きな公園を1週したり、カピラノという吊り橋で有名な観光地まで行ってみると、短時間でしたが良いリフレッシュになりました(写真3)。



写真3：サイクリング中

国際会議への準備は大変ですが、得られる経験は非常に大きいと毎回感じます。また国際会議に参加できるよう、今後も研究をしっかり継続していきたいと思えます。